

「令和5年度いわて新農業人チャレンジファーム第20回研修を開催しました！」

第20回の研修は、令和5年11月11日(土)、盛岡市猪去の株式会社いわて若江農園へ現地研修に伺いました。

いわて若江農園は2009年に、代表取締役の若江俊英氏のご夫婦でトマト栽培をメインとして就農し、2016年に法人化しました。県内ではいち早く環境制御装置を導入し、通年栽培、出荷に取り組んでいます。また、独自に労務・栽培管理システムを構築し、令和3年には大玉トマトの単収を、2年連続で県平均の5倍以上にあたる40t/10aを達成するなど、岩手を代表する先進農家として活躍しています。

今回の研修では、始めに会社概要や今後の展望についてお話を伺った後、トマトを栽培する環境制御ハウスを見学させていただき、施設の特徴や、ロックウールを使用したトマトの栽培方法についてお話を伺いました。

また、各設備の自動化に加え、環境制御装置によりトマト栽培に適した環境作りが一元管理されており、「トマトをすくすく育てる環境作りに注力している。」と若江社長からのお話を伺い、受講生は先進の栽培技術を興味深く視察していました。

その後、事務所に移動し、就農に至った経緯や、これまでの資金調達等、苦勞した経験を踏まえてのアドバイスなど、受講生が気になる点について詳しくお話を伺いました。

若江社長からは、「新規就農者が就農後にどう勝負するのか、その土俵で何年勝負するのかは考えなくてはならない。昨今の情勢は厳しいがこれから頑張っていただきたい。」とのお言葉をいただきました。

次回の研修は、11月17日(金)、18日(土)に、盛岡市勤労福祉会館で、関係法令や農地法についての講義を行う予定です。



受講生の質問に答える若江社長（右）



環境制御ハウスの設備について説明を受ける受講生



環境制御装置について説明する若江社長



若江社長から就農の経緯等のお話を伺う受講生